

令和7年度 第1回公立大学法人岐阜県立看護大学教育研究審議会 議事録

- 1 日 時 令和7年6月19日(木) 10:27~11:29
- 2 場 所 公立大学法人岐阜県立看護大学 会議室1
- 3 出席者 北山学長、松下委員、梅津委員、青木委員、大川委員、橋本委員、山田委員
北村委員、黒江委員
欠席者 なし
事務局 布施総務課長、清水学務課長、齊藤主査、大野主事

4 議事概要

審議事項

(1) 令和6年度事業報告書(案)について

事務局より、資料1に基づき令和6年度の教育研究に関する業務の実績について説明がなされ、審議を行った結果、案のとおり承認された。

審議における発言等は以下のとおりであった。

- 令和6年度の看護学部の卒業者が71名と少ないことについて確認がなされた。令和3年度の入学者は80名であり、そのうち退学した者が1名、学修上の困難や体調不良等により留年や休学をしている学生が8名いたため71名となったことが報告された。入学後早期から学修上の困難を抱えている学生も複数おり、留年や休学をしている学生に対しては、個別支援を継続していることが回答された。

18歳人口の減少が続き、公立大学でも確保できる学生の質が変化していく可能性があることから、今後個別支援は重要な課題となることが考えられる。そのため、必要があれば体制の強化も検討するよう意見が出された。

- 志願者の確保に向けて、中学生向けプログラムの実施は重要な取り組みであり、令和6年度から始まったことは良いことであるが、今後の人口減少を考えると、より低年齢の方にも大学を身近に感じてもらえるよう、地域の小学生との交流も進められると良いとの意見が出された。

- 18歳人口が大幅に減少する中、国立大学の定員見直しや私立大学の統廃合といったニュースも出てきており、大学を維持するためには卒業者の質を確保することが必要である。そのため、質の確保に向けた取り組みを継続するとともに、社会に対して大学がどのような知識やスキルを身につけた卒業者を輩出しているかPRすることも重要であるとの意見が出された。

卒業者の質の確保については以前から力を入れているが、質を捉える視点が重要になるため、今年度チームを組織して、アセスメントプランの検討を進めていること、及び検討結果を踏まえて質の確保の強化を図るとの回答がされた。

- 大学の維持に向けては、地域とのつながりを深めることも重要であり、共同研究事業や看護実践研究指導事業の課題数が減少傾向にあるのであれば、臨床現場が大学に求める支援を確認し、ニーズに対して大学が提供するものを検討してもらいたいとの意見が出された。

(2) 理事長選考会議委員の選出について

事務局より資料2に基づき説明がなされ、委員2名の選出を行った。

黒江委員より、松下委員、梅津委員の2名の推薦があり、提案のとおり選出することが承認された。

5 報告事項

- (1) 教育研究に関する令和7年度年度計画について
- (2) 認証評価の受審結果について
- (3) 教職員の人事について
- (4) 科学研究費補助金の採択の実績について
- (5) 令和7年度入学試験結果について
- (6) 令和6年度卒業者就職・進路状況について
- (7) 令和6年度国家試験受験者合格状況について

事務局より資料3、資料4、資料5、資料6、資料7、資料8及び別冊資料に基づき報告がなされた。

委員より、今後志願者数は伸び悩み、大学の運営は厳しくなることが考えられる。この状況をどう乗り越えていくのか、長期的な方向性を定めて取り組むよう意見が出された。また、取り組みにあたっては、本学の良さを失うことなく時代に合った方策を検討することが求められた。

6 閉会